

宮前区に2つの図書館、市民館を！タワマン計画の見直し！
現区役所の存続と鷺沼にも支所を！

第1次分+追加分

8,055人分の署名を提出

「現宮前区役所を存続し、鷺沼駅前再開発を考える会」（以下、「会」）は2月25日、市庁舎を訪れ、「鷺沼駅前再開発・タワマンの見直しと今の宮前区役所の存続と2つの図書館・市民館の設置を求める陳情」の署名を川崎市議会に提出しました。署名数は、この時の提出分とその後の追加提出分を合わせて、8,055人に達しました。

提出に先立ち、「会」は記者会見。小久保善一代表は「署名の反響が大きく、署名数が宮前区では最高になりました。住民はタワマンも、区役所移転も認めていません」と強調しました。



市民の署名を手渡す「会」のメンバー

川崎市も市議会も、この声に耳を傾け、
コロナ後を見据えた計画へ、真剣な検討を

「遠くて不便になる」「タワマン時代遅れ」… わずか2ヵ月半での署名、宮前区で過去最多署名数



記者会見に9社が参加

署名の取り組みは年末年始を挟んでわずか2ヵ月半。駅頭で訴えたり、ご近所を訪問したりして署名をお願いすると、「知らなかった」「遠くて不便」「税金を100億円も使うなんて」「タワマンはいらない」「区民が23万なのに図書館が一つなんて遅れてる」など署名項目の一つ一つに、切実な反響がありました。

署名用紙をポストに配布したところ、署名を郵送で送ってくださった方が、3月11日現在で

134通、約210筆に達し、現在も続いています。陳情の審議は5月ごろの予定です。「会」ではそれまでにさらに署名運動を広げ、1万人を目指します。

いま、市政の転換が問われています “東急いいなり・住民軽視”から住民本位へ

東急が鷺沼駅前再開発を言い出すと、市は「区の庁舎を鷺沼に」と応じ、今度は東急がコロナ禍で計画を見直すという、さっさと手続きの先送りを決める（裏面参照）。見えてくるのは、東急に振り回されている川崎市の姿です。住民が「もっと住民参加で議論を」と求めても、受け入れられませんでした。

住民の声に真剣に向き合う市政への転換こそ、いま求められています。

現宮前区役所を存続し、鷺沼駅前再開発を考える会（略称）

宮前区役所・市民館・図書館の移転に反対し、鷺沼駅前再開発を考える会 TEL 080-6758-4252(猪俣)

<https://www.kuyakushokangaerukai.miyamae-kawasaki.jp/>

ホームページのQRコード



鷺沼駅前 再開発

コロナで激震 急展開！

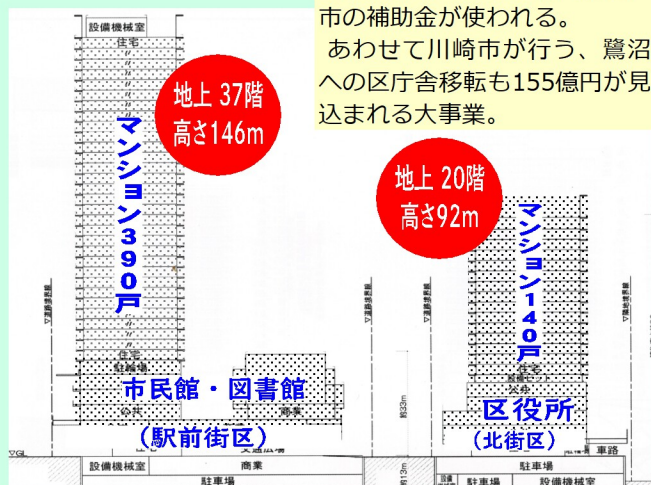
東急が計画を大幅見直しへ

新型コロナ危機が、鷺沼駅前再開発事業を直撃しました。東急は昨年11月、「社会ニーズの変化」（オープンスペース、職住近接ニーズなど）を理由に「計画の検証」を市に申し入れました。背景には、コロナ禍による東急の収益減があるといわれています。

1年～1年半先送りへ

市はこれを受けて、「計画の手続きを1年から1年半先送り」し、「ウィズ・コロナ、ポスト・コロナにおける」「ニューノーマルに対応したまちづくり」をすすめる、としています。

【鷺沼駅前地区再開発事業】東急など民間の事業。総事業費500億円、うち100億円は国・市の補助金が使われる。あわせて川崎市が行う、鷺沼への区庁舎移転も155億円が見込まれる大事業。



新たな見直しにあたっての私たちの提案

いまこそ、市と東急は住民と協議を

この計画は、市の認可のもと「福祉に寄与すること」を目的として行われ（市街地再開発法）、百億円にのぼる市民の税金もつぎ込まれます。住民の理解と納得が不可欠です。

ところがこの間、住民合意に至らないまま、「東急の日程上の都合」を理由に、見切り発車されてきました。「計画見直し」「1年～1年半先送り」をいうのなら、きちんと説明会を開き、住民と協議して合意のうえで、見直しをすることを求めます。

コロナ後を見据え、一極集中でなく分散、緑・ゆとりの宮前区と鷺沼を

市は、「鷺沼を区の『核』にする」「コンパクトシティの方向は変えない」としていますが、コロナで問われているのは、そうした一極集中の街づくりそのものです。コロナ後の街づくりを展望し、大もとからの再検討を求めます。

- ① 鷺沼駅前のタワーマンション計画は見直し、低層化を。
緑をふやし、憩いの広場とゆとりのある駅前に。
- ② 区の施設は集中ではなく分散。歩いて行けるとところに区の施設を。
 - 今ある区役所・図書館・市民館は存続。
 - 鷺沼に区役所支所と二つ目の市民館、図書館を。
 - 向丘出張所の機能の充実、野川と菅生にも出張所の新設を。